

# 笑ってごらん

第 645 号 2019. 2. 6 発行

～今日の格言～

知恵能は 身につきぬれど 荷にならず  
人は重んじ はづるものなり  
(島津日新公いろは歌)



2月に入った。つい先日新しい年を迎えたばかりのような気がするが、時の流れは早いもので、もうひと月経ってしまった。

「2月」の別名は『如月(きさらぎ)』。古典の授業などを通じて積極的に覚えた記憶があるのではないだろうか。

しかし、如月はもともと旧暦2月を指す言葉であり、現在私たちが使っている新暦(太陽暦)に当てはめると、「2月中旬頃から4月上旬頃」にあたり、およそ一ヶ月ズレている。

調べてみると、この『如月』はもともと『衣更着』という漢字で「寒さが厳しく重ね着をする」という意味だったようだ。

ほかに「天気が良くなり陽気が更に増す」から『気更来』・『息更来』、「春に向かって草木が生え始める」から『生更来』、「お正月に迎えた春が更に春めいてくる」から『来更来』という説がある。

さらに、「草木の芽が張り出す月」ということで『草木張り月』が『きさらぎ』に転じたという説もある。

『如月』の文字は中国の2月の異名『如月(に



よげつ)』が由来とされ、「春に向かって万物が次第に動き始める」という意味がある。

新暦の2月はまだ寒さが厳しく、草木が芽吹くにはまだ早い…と感じるが、旧暦2月ならば梅の花が咲き始め、春がそこまで来ている時期である。

3日は『節分』だった。節分とは各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のこと。近年では商業戦略に煽られ、「豆まきをして恵方巻きを食べる日」とイベント色が強くなっているが、実のところは、季節の変わり目に生じる邪気(鬼)を豆で追い払ったり、恵方を向

いて願い事をしながら無言で太巻き寿司を丸かぶりすると縁起が良いとされるからなのである。

こうして何気なく見聞きしている事柄にも様々な意味が含まれている。是非、素通りすることなく立ち止まって調べてみよう。(もっと面白いエピソードに出逢えるかも知れない…)

3日(日)、一般入試合格者の集いを実施した。

メディカルシステム科・総合福祉科・普通科の一般入試合格者・保護者に対し改めて合格学科の特徴などの情報を提供、今後の入学手続きのための参考にしてもらうものであった。

欠席者も少なかったことに加え、説明終了後の質問など多く、関心の高さを伺い知ることができた。

参加してくれた生徒たちの中には公立高校受験予定の生徒も多くいることだろうが、今後検討の上、一人でも多く本校に入学してくれることを期待している。

